

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立加唐小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島留学生の受入れで児童生徒数が増え、道徳や児童生徒会活動を通して多様な感じ方や考え方に触れる機会を作ることができたことで、思いやりのある他者への関りができ、島への愛着をより高めさせることができた。</li> <li>・積極的にICTを活用することで、児童生徒が調査活動を充実させ、発表力のスキルアップを図り、他者から評価を受けることで学習に対するモチベーションを高めることができた。また、特別支援学級においても、言語習得や学習への意欲を高めさせることができた。</li> <li>・時間外在校時間は減少傾向にあった。引き続き、教職員が健康で日々の教育活動に取り組めるよう、働き方改革の推進に取り組んでいきたい。</li> <li>・来年度も食育の推進と、家庭学習の進めさせ方について、学校全体で話し合っていく必要がある。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	夢の実現に向かって <b>たくましく 挑戦する 児童生徒の育成</b> — <b>郷土愛 主体性 協働</b> —
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>(1) 離島へき地教育の推進(基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成)</p> <p>(2) 特別支援教育の推進(実践と研修の充実)</p> <p>(3) 地域とともにある学校づくり(体験活動を通じた郷土の魅力を見発見・発信する活動)</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	○県学習状況調査、CRT標準学力検査等の学力検査において、全ての学年・教科で県平均を上回るようにする。	○学力向上対策評価シートの重点取組と成果指標を全職員と共有し、実践する。 ○個に応じた授業づくりに向け、児童生徒の実態を把握するための環境を整える。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲への思いやり」を肯定的に評価している児童生徒の割合を80%以上にする。	○道徳に関するアンケートを実施する。 ○道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	B	・道徳アンケートでは児童生徒の「周囲への思いやり」は肯定的な意見が100%である。また、他者や学校・集団のかかわりに関しては全体的に意識が高い。 ・各学年とも道徳の授業計画通り行っている。 ・校内研修の充実という点では不足した。	B	・児童・生徒一人ひとりの優しさを感じる。 ・学校以外でのあいさつなど、できるときもあるが、もう少し頑張りたいという時もある。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止に向けて、適切かつ組織的に対応できていると回答した教員の割合を80%以上にする。	○月に1度の生活アンケートを実施し、いじめ等の早期発見、早期対応を行う。 ○人権・同和教育に関する職員研修会を実施し、教職員の知識・理解を高める。	A	・生活アンケートは毎月実施できた。そしてアンケートで覚知した事案に対して、管理職をはじめ職員で対応することができた。また、「いじめ防止に向けて適切かつ組織的に対応できている。」と回答した教員は100%であった。	A	・小さいことから丁寧に対応されていると感じる。 ・時間がたつと忘れることもあると思うが、毎月、生活アンケートを取られているところは良いことだと思うので、これからも続けてもらいたい。
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「友だちや先生はあなたのことを理解し、認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を100%にする。 ○「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒を100%にする。	○各行事で、児童が主体的に計画や役割を担い、達成感を味わうことができるよう教師がサポートする。そして達成したところを称賛し評価する。 ○体験活動等の校外学習を実施し、学んだことを生かそうとする場を設定する。 ○キャリアサポート・子どもカルテを活用する。	B	・大きな行事では、「ゆき会」を中心に児童生徒が話し合いをしながら、各自が担当する役割を果たすことができた。 ・「友達や先生たちは、あなたのことを理解し認めてくれている。」と回答した児童生徒は100%であったが、「将来の夢や目標を持っている。」と回答した児童生徒は、約70%と数値目標には届かなかった。	B	・児童・生徒の皆さんのこれからの「夢」について、急ぐ必要はないし、変わっていくことももちろんあると思うが、いろいろな学習や体験を通して、どんなことがしたいのか、何を役立ちたいのか、子どもたちの主体性を大切にしながら見つめてほしい。
	◎島を愛し、地域とのつながりに積極的に活動する教育活動の推進	◎島の「歴史」や「魅力」「よさ」を探求し、島民と積極的に交流する児童生徒を90%以上にする。	◎授業や各行事(島民体育大会や文化祭、校外学習等)に積極的に参加し、自己肯定感を高める。 ◎「島の魅力やよさ」に気付かせる取組により、先人たちの努力や功績を自身の生活に生かす機会を作る。	A	・島民体育大会や文化祭においては、児童生徒全員が活動的に動きながら、島民の方々と積極的に交流することができた。また、「加唐島・松島が好きだ。」と回答した児童生徒は100%で、島への愛着や誇りを感じている児童生徒は全員であった。	A	・松島・加唐島のことを大切に思い、清掃活動をしたり、漁業や若者の活躍について学習されたりしていることは、とてもいいことだと思います。 ・生徒の中には大人と同じように島のために働いてくれています。子どもたちが島で楽しく生活できるように私たちが協力します。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○「健康を考えて行動できる能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上にする。 ○「健康は何より大切だ」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒90%以上にする。	○生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ○保健だよりを定期的に発行する。	B	・「健康に良い食事」について、できていないと考えている児童生徒が数名いる。自分の好きなものや簡単に食べられるものだけを食べたり、家族と食事をしていないことも自覚している。食べられればよいではなく、将来の健康について理解はできているが行動に移せていない状況である。	B	・食生活(食育)については、家庭との協力も必要になりますが、好きなものだけ食べるのではなく、バランスを考えながら食事をしていることが健康になる第一歩だと思います。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上をめざす。	○定時退勤日を設定し推進する。 ○長期休業中の年次取得を推進する。 ○夏季休業中に学校閉庁日を設定する。	A	・長期休業中の年次取得については学校行事や職員会議等を減らすことで年次取得が進んだといえる。また、課業日(平日)の年休についても周りの職員がサポート意識が高まり休暇取得がしやすい雰囲気ができている。	A	・学校の外からは分かりにくいところではあるが、教職員の表情から、教職員が動きやすいと感じる職場になっているのではないかと考える。
●特別支援教育の充実	●ワーク・ライフバランスを意識し、離島ならではの豊かな時間の過ごし方の実践	○年度初めや学期末など繁忙期を除き在校時間削減を目指す。	○定時退勤日の設定と推進。 ○繁忙期を除き、遅くとも午後6時までの退勤をめざす。	B	・教務、事務職員、教頭など特定の職員の在校時間が比較的長く、年度末に近づくに従ってまた在校時間が長くなってきている。 ・上記以外の職員に関しては昨年度より在校時間が減少している。	B	・教職員の働き過ぎには気を付けてほしい。 ・一部の職員に業務が偏ることなく、健康面に気を付けて仕事を進めてほしい。
	●特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育の視点を入れた研修を毎月1回は取り入れる。	○個に応じた学習指導の方法を工夫、改善する。 ○各関係機関との情報共有、連携を密にする。	A	・特別支援学級児童の実態を的確に把握し、それに応じた学習指導の方法を工夫し、児童の成長が見られた。 ・毎月、職員会議の折に特別支援学級児童の現状を報告し、全職員に共通理解を図った。	A	・担当の先生が愛情をもって指導されている。児童の成長をとても感じる。 ・職員全体で協力して特別支援教育を進められている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○校内研究	○個に応じた指導による基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成	○個に応じた指導による基礎学力の向上について、肯定的な回答をした保護者、教員の割合を80%以上にする。 ○話し合い活動などで「自分の意見や考えを話している」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。	○校内研修において、教職員間での授業報告・改善を行う。 ○ICTの利点を生かした授業改善に取り組む。(即時フィードバック、共有、リモート会議等)

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は松島・加唐島をもっと好きになるための学習活動や体験活動に取り組むことができた。</li> <li>・校内研において児童・生徒に応じた指導を行ってきた。今後もレベルアップを目指していきたい。</li> <li>・夢や憧れを大切に、主体的に学習に取り組む姿を目指していきたい。</li> <li>・特別支援教育において、全職員で協力しながら言語習得や学習への意欲を高めさせることができた。</li> <li>・時間外在校時間は減少傾向にあった。引き続き、教職員が健康で日々の教育活動に取り組めるよう、働き方改革の推進に取り組んでいきたい。</li> </ul>
--------------------	--